

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	全 員 協 議 会	場 所	全 員 協 議 会 室
		担 当 職 員	熊 谷 夏 子
日 時	令和３年１１月２２日（月曜日） 開議 １１時１５分 閉議 １１時４２分		
出 席 議 員	議員２３名		
執行機関出席者	（政策企画部）浦部長 （財政課）山本課長、玉井副課長、小森予算係長		
事務局出席者	山内議会事務局長、井上議会事務局次長、加藤副課長、 佐藤主任、小野主任、熊谷		
傍 聴	可・否	市民１名、報道関係者０名	

会 議 の 概 要

開議 １１：１５

１ 開 議

〔福井議長 開議〕

〔事務局長 日程説明〕

２ 行政報告

○亀岡市の財政状況及び今後の見通しについて

〔（政策企画部）浦部長、（財政課）山本課長 説明〕

〔質 疑〕

<竹田議員>

普通建設事業費が５０億円を超えることについて、亀岡市の財政規模からすると少し大きいと言われたが、本市の状況においてどの程度が理想とされるのか。

<財政課長>

公債費の起債残高が４００億円から４００億円を切ることを目標としている。それを踏まえて５年間の単年度平均で２５億円程度がこうした公債費や起債残高を減らすと想定される。

<長澤議員>

普通建設事業費を25億円程度と言われたが、令和8年度で顕著に減っているのはどのような見通しなのか。

<財政課長>

一定のフレーム化を想定しており、25億円の単年度平均から結果的に令和8年度が少ない数字となる。直近の令和4年度、令和5年度については、見通しとしては近い将来なので、偏りがある。

<長澤議員>

端的に言えば、令和8年度に普通建設事業費が単独で4億円余りに減少しているのはなぜなのか。

<財政課長>

学校建設等については大体平均化したものになるが、単年度で終わる事業があるので、令和8年度はその分が見込まれないためである。

<福井議長>

4ページの臨時財政対策債が平成30年ごろから毎年減っているが、亀岡市の財政的なことと関係あるのか。それとも単純に国が減らしているだけか。

<財政課長>

臨時財政対策債は平成13年から制度化された。償還が20年であり、ちょうど20年が経過して、償還終わりと発行があることが一点目の理由である。また、近年最高で17億円まで単年度で発行があったが、現在は10億円ちょっとである。今年度は12億円だが、大体10億円前後の発行額に収まっていることが二点目の理由である。

<福井議長>

分かった。他に質疑はないか。なければ、以上で質疑を終わる。

11 : 40

〔政策企画部財政課 退室〕

11 : 41

3 その他

<福井議長>

事務局から何か連絡事項はあるか。

<事務局長>

午後からの会議予定を連絡させていただく。午後からは会派会議、広報広聴の各部

会、その後、広報広聴会議が開催される予定となっている。よろしくお願いします。
＜福井議長＞

皆さん、よろしくお願いします。それでは全員協議会を閉議する。

閉議 11：42